

平常時の心得

水害のおそれがある場合、テレビ・ラジオや市の防災行政無線などで避難の呼び掛けをしますので、速やかに避難してください。

①非常持ち出し品の事前準備を

避難するときの荷物は必要最低限とし、事前に準備しておきましょう。

※関連記事を本誌27ページに掲載しています。



②大雨や台風に向けて、家の周りを点検・整備しておく

家の周りに吹き飛ばされそうな物はないか、テレビアンテナなどは傷んでいないか確認しておきましょう。また、家の前の排水溝が詰まっていないかなどの確認も必要です。



③避難所や避難路を確認しておく

ハザードマップには、洪水時に避難する場所が示されています。自分の地区の避難所はどこなのか、そこへ安全に行くためにはどう行けばいいのかわかるかを確認しておきましょう。



④一人暮らしのお年寄りなどには気配りを

自分の家族や住まいだけでなく、地域全体にも目を向けましょう。特に、一人暮らしのお年寄りや病気の人たちには、普段からの気配りが必要です。



近年は全国各地で台風や大雨により記録的な豪雨災害が発生しています。特に昨年の鬼怒川の堤防決壊や、一昨年の広島市の大規模な土砂災害では人命にかかわる甚大な被害が発生しています。

いつ、どのように起こるかかわからないさまざまな災害に対し、日頃から一人一人に心構えと準備が大切です。



自主防災組織の「出前講座」を実施しています

5年前の東日本大震災以降、台風や豪雨被害が多発し、地域防災力の強化のため、住民主体による自主防災組織の活動が強く望まれています。市でも、広く住民の皆さんに防災意識の普及を呼び掛けているところです。

防災対策課では、市内全区に『自主防災組織活動マニュアル』および『自主防災活動のてびき』の2冊を配布しました。また、自主防災組織の発足、育成を支援するために、要望のあった行政区に出向いて出前講座を実施しています。講座内容も地域の実情や具体的な内容に考慮していますので、気軽ににご相談ください。



自主防災活動のてびき



自主防災組織活動マニュアル